

第1回ERL検討会議事メモ

日時： 2006年2月24日（金） 15:00～17:30

場所： PF研究棟2階会議室

報告>

1. ERL 推進室の体制に関して(河田) (資料1参照)

資料1のファイルをもとに説明。推進室の体制、原子力機構との会合内容、推進室の位置付け、実証機開発予定地について報告。

2. 具体的なワーキンググループ編成に関して

春日氏から資料2の提案のワーキンググループ編成案が提示され、それをもとに意見、提案の議論を行う。以下のような代表的な意見が提示され、それらをもとにワーキンググループの編成を修正案のワーキンググループ編成とすることとし、先ず全体設計WGでその内容を議論し、その後に各個別の開発要素のWGの検討項目の整理を行う。

<意見>(順不同)

- ・全体設計は各個別の開発要素の上に位置する形であるべきである。
- ・全体設計の中には利用研究、またその利用研究を実現にする光源設計が検討メンバーとして入るべき。
- ・電子銃のカソードに関する技術は固まっていない。はじめから一つに絞らないで開発する体制が必要。
- ・原理実証機段階(エネルギー回収できるか否か、大電流では?、エミッタンスは?、短パルスは?)では、先ず加速器の開発が必要であり、現時点で光源設計を全体設計に含めることには疑問。もちろん、その開発段階で光を用いた評価実験、及び特徴的な放射光利用実験を考える必要はあるが。

結論として、全体設計を資料2の修正案にあるように、全体設計WGで全体の実証機的设计思想を検討・設計し、その内容をもとに各個別開発要素・検討要素のWGが検討内容、開発項目を検討する。全体設計WGの中には加速器だけではなく、利用研究、光源設計のメンバーも参加する。

3. 原理実証機で何の実証を目指すか?

坂中氏から羽島氏(原子力機構)の思案(資料3)を紹介。基本的に大電量運転の実証、低エミッタンス運転の実証、バンチ圧縮の実証の順に進めていくことを考えている。またその内容は2003年に横谷氏を中心にして検討した実証機の実証項目とほ

ば一致。

この項目に関して反対意見はなく妥当と考えられるが、その内容に関しては再度全体設計WGで確認することとした。

4. 次回の予定：以下は前回の検討会では議論いたしませんでしたが、推進室で調整し、以下のように検討会を開きます。皆様御参集ください。

日時： 3月16日(木) 13:00～15:00

場所： 4号館2階輪講室1

議題： 全体設計WGの検討項目

文責 河田